

令和7年度 教育委員会 第9回定例会 議案

1 日 時 令和7年8月6日（水） 午後1時30分

2 場 所 教育委員会議室

3 日 程

（1）開 会

（2）議 案

＜非＞第11号議案	教職員の懲戒処分	…非
＜非＞第12号議案	教職員の懲戒処分	…非
＜非＞第13号議案	教職員の懲戒処分	…非

（3）報告事項

（4）閉 会

第 9 回定例会 報告事項

番号	項 目	Page
報告 事項 1	令和 7 年度全国学力・学習状況調査結果報告	P1

(件名)

令和7年度全国学力・学習状況調査結果報告

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、こうした取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査実施日・実施学校数

- (1) 実施日：令和7年4月17日（木）
- (2) 実施学校数：小学校477校、中学校259校（政令指定都市、特別支援学校含む）

3 調査事項

- (1) 児童生徒：教科調査（国語、算数・数学、理科）、学習状況に関する質問調査
- (2) 学校：指導方法に関する取組や教育条件の整備の状況等に関する質問調査

4 教科調査のポイント

- ・学習指導要領で育成を目指す「知識及び技能」や「思考力、判断力、表現力等」を問う問題が出題された。
- ・設問等を通じて、「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善に関するメッセージが発信された。

5 調査結果の概要（政令指定都市を含む）

- (1) 教科調査（学力に関する調査） ※表の（）内は、小数点以下を県独自に計算
ア 小学校（教科ごとの平均正答率） (単位 %)

区分	令和7年度		区分	令和6年度	
	静岡県	全 国		静岡県	全 国
国語	66 (66.0)	66.8	国語	67 (67.2)	67.7
算数	57 (57.1)	58.0	算数	62 (61.6)	63.4
理科	55 (55.3)	57.1	理科		
総合			総合		

イ 中学校（教科ごとの平均正答率） ※中学校理科のみ I R Tスコア (単位 %)

区分	令和7年度		区分	令和6年度	
	静岡県	全 国		静岡県	全 国
国語	56 (56.3)	54.3	国語	59 (59.0)	58.1
数学	51 (51.0)	48.3	数学	55 (55.3)	52.5
理科	52.7	50.3	理科		
総合			総合		

※ I R T（項目反応理論）について

児童生徒の正答・誤答が問題の特性（難易度等）によるのか、児童生徒の学力によるのかを区別して分析し、児童生徒の学力スコアを推定する統計理論である。

I R Tスコアは標準化された指標であり、500を基準として設定されているが、実際の平均スコアは試験や年度によって変動することがある。

(2) 学習状況に関する質問調査

ア 児童生徒

(ア) 概要

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査。

〈主な調査項目〉(質問は小学校計71項目、中学校計72項目)

- ・生活習慣、学習習慣、読書等
- ・向社会性、自己有用感等
- ・主体的・対話的で深い学び
- ・ICTを活用した学習状況
- ・教科に関する意識、学習活動
- ・総合、学級活動、道徳

(イ) 主な結果 ※[]内は中学校の質問。

(単位 %)

調査項目	質問項目	小学6年生			中学校3年生		
		静岡県	前回比	全国比	静岡県	前回比	全国比
自己有用感	5 自分には、よいところがあると思いますか	87.9	3.0	1.0	87.2	2.6	1.0
	6 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	93.1	2.6	0.9	93.5	2.2	1.3
学習習慣	17 学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)[1時間以上]	55.9	-0.8	1.9	63.1	-4.3	1.5
	19 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか[1時間以上]	44.7	-0.6	-2.4	59.8	-5.1	1.9
ICTを活用した学習状況	28 5年生まで[1、2年生のとき]に受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか[週3回以上]	78.4	12.9	6.7	85.4	13.4	8.9
	29 (3) あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って情報を整理する。(図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる)ことができるとと思いますか	70.0	新規	0.7	65.4	新規	2.1
	(4) あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って学校のプレゼンテーション(発表のスライド)を作成することができるとと思いますか	79.6	新規	2.9	82.1	新規	5.5
主体的・対話的で深い学び	31 5年生まで[1、2年生のとき]に受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか	61.9	0.8	-6.7	55.4	-1.0	-7.6
	32 5年生まで[1、2年生のとき]に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか	80.2	-1.7	-0.1	78.7	-2.5	1.0
	36 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか	78.6	-1.7	-0.8	72.5	-4.0	-0.9
教科	53 算数[数学]の勉強は好きですか	59.5	-3.3	1.6	56.8	-1.5	3.0
	55 算数[数学]の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	91.5	-3.2	-0.1	76.1	-2.0	0.9
	算1 今回の算数の問題では、言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか	72.1	-5.2	-2.4			
	数1 今回の数学の問題では、解答や言葉や数、式を使って説明する問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか				55.6	3.6	0.7

イ 学校

(ア) 概要

学校における指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査。

〈主な調査項目〉（質問は小中学校ともに計 84 項目）

- ・学校運営、教職員の資質向上
- ・主体的・対話的で深い学び
- ・I C Tを活用した学習状況
- ・各教科の指導方法

(イ) 主な結果 ※[]内は中学校の質問。

(単位 %)

調査項目	質問項目	小学校			中学校		
		静岡県	前回比	全国比	静岡県	前回比	全国比
学校運営	15 児童[生徒]の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか	98.9	±0.0	1.8	98.8	-0.5	2.8
	16 指導計画の作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせていますか	97.7	-0.4	0.2	94.9	0.9	2.8
	72 前年度までに、近隣等の中学校[小学校]と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取組をどの程度行いましたか	71.7	-1.8	6.4	75.9	-0.2	4.2
	77 コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解が深まりましたか	96.4	3.1	3.1	94.5	5.3	5.5
主体的・対話的で深い学び	25 調査対象学年の児童[生徒]は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか	89.1	2.0	-0.2	89.5	5.1	1.3
	26 調査対象学年の児童[生徒]は、授業において、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていると思いますか	78.2	0.5	-2.2	84.1	4.4	1.3
	28 調査対象学年の児童[生徒]は、授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にしてお互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいると思いますか	95.4	0.2	1.2	97.3	0.5	2.2
	29 調査対象学年の児童[生徒]は、授業では、自分で学ぶ内容を決め、計画を立てて学ぶ活動を行っていると思いますか	68.1	8.8	4.0	54.4	0.2	-2.2
	31 調査対象学年の児童[生徒]に対して、前年度までに、学習指導において、児童[生徒]が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫しましたか	95.4	-0.9	0.1	94.9	-2.3	-0.1
I C T	60 調査対象学年の児童[生徒]が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、児童[生徒]一人一人に配備されたP C・タブレットなどのI C T機器をどの程度使用させていますか [週3回以上]	55.4	-1.9	3.2	60.0	0.7	7.7
家庭学習	80 調査対象学年の児童[生徒]に対して、前年度までに家庭学習の取組として、学校では、児童[生徒]に家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えましたか	96.7	-1.5	0.1	92.2	-3.1	-0.6
	81 調査対象学年の児童[生徒]に対して、前年度までに、家庭学習について、児童[生徒]が自分で学ぶ内容や学び方を決めるなど、工夫して取り組めるような活動を行いましたか	91.0	2.2	0.4	84.4	2.3	-1.5

6 調査結果の速報分析

- 学力に関する調査では、小学校は、国語、算数、理科ともに、全国の平均正答率を下回った（国語は0.8ポイント、算数は0.9ポイント、理科は1.8ポイント）。中学校は、国語、数学、理科ともに、全国の平均正答率（理科はI R Tスコア）を上回った（国語は2.0ポイント、数学は2.7ポイント、理科は24）。中学校は調査開始以来、常に全国の平均正答率を上回る良好な結果となっている。今後は、検証・分析を行い、更に改善策等について検討する。
- 学習状況に関する調査では、自己有用感に関する項目（質問番号5、6）に肯定的に回答した割合が小学校、中学校ともに高く、教職員からの肯定的な声かけや日頃からの児童生徒一人一人を大切にしたい関わりの積み重ねが、児童生徒の自己有用感の向上に寄与していると考えられる。
- I C Tの活用に関する項目（質問番号28、29）では、全国平均を大きく上回った。また、経年変化を見ると年々、肯定的な回答の割合が高くなっている。このことから、I C Tを活用した個別最適な学びや協働的な学びを意識した授業づくりが推進されていると捉えることができる。
- 主体的・対話的で深い学びに関する項目（児童生徒質問調査：質問番号31、32、36、学校質問調査：質問番号25、26、28、29、31）において、肯定的に回答している割合が高くなっている。このことから、多くの学校で、授業改善への取組を進めていることが分かる。一方で、「自分の考えを工夫して発表できるか」という設問では課題が見られたことから、より一層の推進が必要だと考える。
- 教科に関する項目（児童生徒質問調査：質問番号53、55、算1、数1）において、「算数[数学]が好き」「算数[数学]が社会に出たときに役に立つ」「算数の問題に粘り強く取り組む」という設問では昨年度より割合が低くなっており、児童生徒が学ぶ楽しさを感じることができるよう、更なる授業改善への取組を進めることが必要である。
- 学校質問調査では、学校運営（地域連携、カリキュラムマネジメント）に関する項目（質問番号15、16、72、77）に、肯定的に回答した学校の割合が高くなっている。

本調査結果から成果と課題を検証・分析し、「確かな学力の育成」に今後も努めていく。

※詳細は「令和7年度全国学力・学習状況調査速報分析」（P 5～15）を参照

7 今後の取組

- ・令和7年度静岡県全国学力・学習状況調査分析会において、学力と学習状況の関連についてクロス集計を用いるなどし、多角的に分析を行い、授業改善方策等を検討する。
- ・成果と課題、今後の対策等について、令和7年度第2回学力向上連絡協議会（令和7年9月24日）において、県及び市町で共有し、更なる改善につなげる。
- ・授業改善方策等を基に、指導訪問や各種研修会において、教育事務所及び総合教育センターの指導主事が学校及び教職員への支援を行う。
- ・昨年度の分析から明らかになった「粘り強く取り組むことの重要性」について、令和7年度第1回学力向上連絡協議会において改めて説明を行った。今後もその重要性を継続的に伝えていく。

「令和7年度全国学力・学習状況調査結果速報分析」

教科に関する調査の結果

小学校

	R7平均正答率(%)		
	静岡県	全国	差
国語	66.0	66.8	-0.8
算数	57.1	58.0	-0.9
理科	55.3	57.1	-1.8

【国語】

分類		区分	対象 問題数	R 7 平均正答率(%)		
				静岡県	全国	差
学習指導 要領の 内容	知識及び 技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	2	74.1	76.9	-2.8
		(2) 情報の扱い方に関する事項	1	63.3	63.1	0.2
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	1	81.1	81.2	-0.1
	思考力, 判断力, 表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	66.4	66.3	0.1
		B 書くこと	3	69.2	69.5	-0.3
		C 読むこと	4	56.3	57.5	-1.2
評価の観点		知識・技能	4	73.1	74.5	-1.4
		思考・判断・表現	10	63.2	63.8	-0.6
		主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式		選択式	9	64.5	64.7	-0.2
		短答式	3	76.1	78.5	-2.4
		記述式	2	57.8	58.8	-1.0

【算数】

分類	区分	対象 問題数	R 7 平均正答率(%)		
			静岡県	全国	差
学習指導要領の領域	A 数と計算	8	60.3	62.3	-2.0
	B 図形	4	57.7	56.2	1.5
	C 測定	2	53.9	54.8	-0.9
	C 変化と関係	3	56.1	57.5	-1.4
	D データの活用	5	60.8	62.6	-1.8
評価の観点	知識・技能	9	65.2	65.5	-0.3
	思考・判断・表現	7	46.7	48.3	-1.6
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	6	66.7	67.2	-0.5
	短答式	6	63.5	64.0	-0.5
	記述式	4	33.2	34.9	-1.7

【理科】

分類		区分	対象 問題数	R 7 平均正答率(%)		
				静岡県	全国	差
学習指導 要領の区 分・領域	A 区分	「エネルギー」を柱とする領域	4	45.7	46.7	-1.0
		「粒子」を柱とする領域	6	49.8	51.4	-1.6
	B 区分	「生命」を柱とする領域	4	48.1	52.0	-3.9
		「地球」を柱とする領域	6	65.5	66.7	-1.2
評価の観点		知識・技能	8	53.2	55.3	-2.1
		思考・判断・表現	9	57.2	58.7	-1.5
		主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式		選択式	11	53.8	54.7	-0.9
		短答式	4	66.4	69.7	-3.3
		記述式	2	41.7	45.2	-3.5

※「学習指導要領の領域」については、一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、各区分の問題数を合計した数は「全体」の問題数とは一致しないところがある。

中学校

	R 7 平均正答率(%)		
	静岡県	全国	差
国語	56.3	54.3	2.0
数学	51.0	48.3	2.7
理科	527	503	24

※理科は I R T スコア

【国語】

分類		区分	対象 問題数	R 7 平均正答率(%)		
				静岡県	全国	差
学習指導 要領の 内容	知識及び 技能	(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	2	48.3	48.1	0.2
		(2) 情報の扱い方にに関する事項	0			
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	0			
	思考力, 判断力, 表現力等	A 話すこと・聞くこと	4	55.2	53.2	2.0
		B 書くこと	5	56.0	52.8	3.2
		C 読むこと	3	63.5	62.3	1.2
評価の観点	知識・技能		2	48.3	48.1	0.2
	思考・判断・表現		12	57.6	55.3	2.3
	主体的に学習に取り組む態度		0			
問題形式	選択式		8	65.0	63.9	1.1
	短答式		2	76.4	73.6	2.8
	記述式		4	28.8	25.3	3.5

【数学】

分類	区分	対象 問題数	R 7 平均正答率(%)		
			静岡県	全国	差
学習指導要領の領域	A 数と式	5	45.9	43.5	2.4
	B 図形	4	49.1	46.5	2.6
	C 関数	3	48.3	48.2	0.1
	D データの活用	3	64.4	58.6	5.8
評価の観点	知識・技能	9	56.8	54.4	2.4
	思考・判断・表現	6	42.2	39.1	3.1
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	3	56.8	54.0	2.8
	短答式	7	54.4	52.0	2.4
	記述式	5	42.6	39.6	3.0

【理科】 公開問題のみの結果について、平均正答率で表している。

分類		区分	対象 問題数	R 7 平均正答率(%)		
				静岡県	全国	差
学習指導 要領の区 分・領域	A 区分	「エネルギー」を柱とする領域	5	56.9	54.6	2.3
		「粒子」を柱とする領域	8	62.7	59.1	3.6
	B 区分	「生命」を柱とする領域	5	41.6	39.2	2.4
		「地球」を柱とする領域	5	39.5	36.7	2.8
評価の観点	知識・技能		10	57.3	55.1	2.2
	思考・判断・表現		12	49.0	45.3	3.7
	主体的に学習に取り組む態度		0			
問題形式	選択式		15	52.7	50.2	2.5
	短答式		1	47.2	44.9	2.3
	記述式		6	55.6	51.1	4.5

※「学習指導要領の領域」については、一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、各区分の問題数を合計した数は「全体」の問題数とは一致しないところがある。

各教科の成果と課題

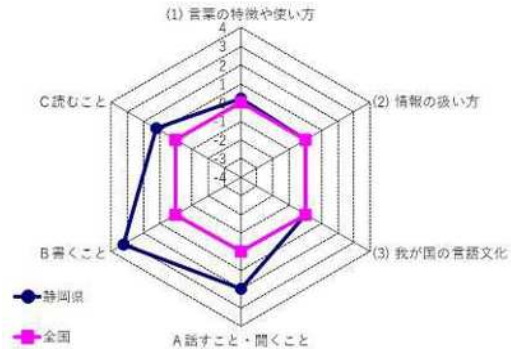
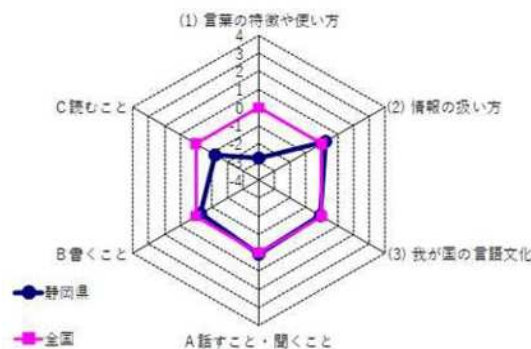
【国語】

- 小学校では、学習指導要領の内容のうち、「情報の扱いに関する事項」及び「話すこと・聞くこと」の区分においては、全国の平均正答率を上回ったが、それ以外の区分においては、全国の平均正答率を下回っている。
- 中学校では、全ての区分で全国の平均正答率を上回っており、分析をもとに目指す資質・能力の育成を今後も継続的に行っていききたい。
- 小学校では、「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結びつけるなどして必要な情報を見付けることに課題がある。文章中から必要な情報を取捨選択したり、整理したり、再構成したりするといった活動を大切にしたい。
- 中学校では、「読むこと」において、文章の構成や展開について根拠を明確にして考えることに課題がある。文章全体や部分における構成や展開を把握した上で、なぜそのような展開になるのか、どのような効果につながるのかなど自分なりの意味付けをすることが重要である。

<学習指導要領の内容の平均正答率の状況（全国との差）>

【小学校】全 14 問

【中学校】全 14 問



◆課題となる問題

	問題番号 [領域等]	正答率 (%)		問題の概要	出題の趣旨
		静岡県	全国		
小学校	1一 [A]	54.1	53.3	【話し合いの様子】における小森さんの傍線部の発言を説明したものとして適切なものを選択する	目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができるかどうかをみる
	3二 (2) [C]	51.3	51.3	【資料3】を読み、【木村さんのメモ】の空欄イに当てはまる内容として適切なものを選択する	事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができるかどうかをみる
	3三(1) [C]	40.1	40.8	【話し合いの様子】の田中さんの発言の空欄Aに当てはまる内容として適切なものを選択する	目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる
中学校	2四 [A]	27.9	23.2	発表のまとめの内容をより分かりやすく伝えるためのスライドの工夫について、どのような助言をするか、自分の考えを書く	資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる
	3四 [C]	18.8	17.1	「一 榎木の実」に書かれている場面が、「二 釣の話」には書かれていないことによる効果について、自分の考えとそう考えた理由を書く	文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることができるかどうかをみる

特に課題が見られた問題

【小学校国語】

3

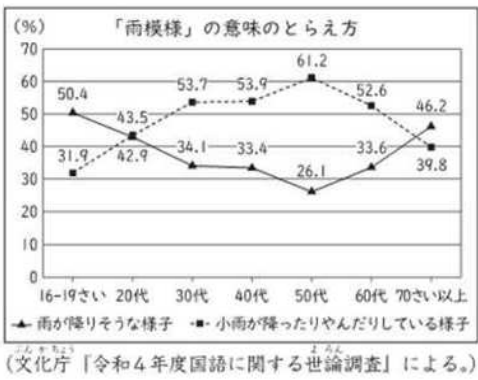
問題番号 3三(1)

三 木村さんは、言葉の変化について田中さんと話し合いながら、【資料1】を読み返しています。次の【話し合いの様子】をよく読んで、あとの(1)と(2)の問いに答えましょう。

【話し合いの様子】

ぼくが読んだ二つの資料(【資料2】、【資料3】)には、言葉が変化していることが書かれていたよ。【資料1】に「言葉の正誤を軽々しく決めることはできない」と書かれていることにつながっているよ。

【資料4】



私は、この資料(【資料4】)を見つけたよ。これを見ると、世代によって、「雨模様」の意味のとらえ方にちがいがいることが分かるでしょ。

本当だ。三十代から六十代は本来の意味とはちがう「小雨が降ったりやんだりしている様子」ととらえている人の割合が高いね。

こんなふうに、人によって言葉の意味のとらえ方がちがうと、伝え合うときに困ると思うよ。だから、【資料1】に「A」と書かれているとおりだと思うよ。

言葉の変化については、いろいろな考え方があるんだね。もう一度【資料1】を読み返して、言葉の変化について自分が一番なっとくしたことをまとめよう。

(1) 【話し合いの様子】の A に当てはまる内容として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

木村さん

田中さん

木村さん

田中さん

木村さん

- 4 【資料1】の部④
- 3 【資料1】の部③
- 2 【資料1】の部②
- 1 【資料1】の部①

3

次の文章は、島崎藤村が書いた「二人の兄弟」という物語です。この物語は、「一 榎木の実」、「二 釣の話」で構成されています。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

前略

ある朝、お爺さんが二人の子供に、「さあ、早く拾いにお出なさい、丁度好い時が来ました」と教えました。その朝は風が吹いて、榎木の枝が揺れるような日でした。二人の兄弟が急いで木の下へ行きますと、榎鳥が高い枝の上からそれを見ていまして、「丁度好い。丁度好い」と鳴きました。

榎木の下には、紅い小さな球のような実が、そこにも、ここにも、一ぱい落ちこぼれていました。二人の兄弟は木の周囲を廻って、拾っても、拾っても、拾いきれないほど、それを集めて楽しみました。

榎鳥は首を傾げて、このありさまを見ていましたが、

「なんとこの榎木の下には好い実が落ちていましょう。沢山お拾いなさい。序に、私も一つ御褒美を出しますから、それも拾って行して下さい」と言いながら青い斑の入った小さな羽を高い枝の上から落としてよこしました。

二人の兄弟は榎木の実ばかりでなく、榎鳥の美しい羽を拾い、おまけにその大きな榎木の下で、「丁度好い時」までも覚えて帰ってきました。

四

で囲まれた部分には、兄弟が目的を達成できなかった場面のとに続く話が書かれています。あとに続く話は、「一 榎木の実」にはありますが、「二 釣の話」にはありません。このような展開になっていることは、「二人の兄弟」という物語においてどのような効果があると考えますか。あなたの考えとその理由を具体的に書きなさい。理由を書く際には、物語の内容を取り上げて書きなさい。

なお、読み返して文章を直したいときは、線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

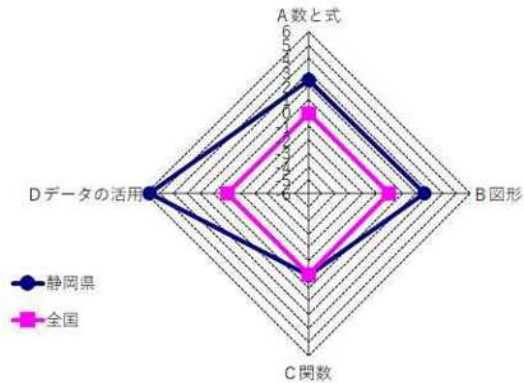
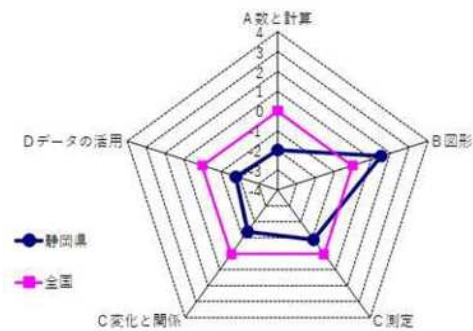
【算数・数学】

- 小学校算数では、「B図形」の領域において、全国の平均正答率を上回っているが、それ以外の領域において全国の平均正答率を下回った。
- 中学校数学では、全ての区分で全国の平均正答率を上回っており、分析をもとに目指す資質・能力の育成を今後も継続的に行っていきたい。
- 小学校では、「A数と計算」の領域において、基礎的・基本的な知識・技能は身につけているが、深い理解を伴う知識の習得やその活用には課題がある。数の表し方の仕組みや数を構成する単位量に着目し、計算の仕方を統合的、発展的に考察し、見いだしたことを表現できるように指導することが重要である。
- 中学校では、「A数と計算」の領域において、数学的な見方・考え方を働かせ、式の意味を読み取り、成り立つ事柄を見だし、説明することに課題がある。生徒自身による説明を体系的・計画的に位置付けていくことが重要である。

＜学習指導要領の内容の平均正答率の状況（全国との差）＞

【小学校】全 16 問

【中学校】全 15 問



◆課題となる問題

	問題番号 [領域等]	正答率（％）		問題の概要	出題の趣旨
		静岡県	全 国		
小学校	1 (2) [D]	28.4	31.0	都道府県Aのブロッコリーの出荷量が増えたかどうかを調べるために、適切なグラフを選び、出荷量の増減を判断し、そのわけを書く	目的に応じて適切なグラフを選択して出荷量の増減を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる
	3 (2) [A]	20.0	23.0	$3/4 + 2/3$ について、共通する単位分数と、 $3/4$ と $2/3$ が、共通する単位分数の幾つ分になるかを書く	分数の加法について、共通する単位分数を見だし、加数と被加数が、共通する単位分数の幾つ分かを数や言葉を用いて記述できるかどうかをみる
	4 (4) [B]	39.1	40.9	10%増量したつめかえ用のハンドソープの内容量が、増量前の何倍かを選ぶ	「10%増量」の意味を解釈し、「増量後の量」が「増量前の量」の何倍になっているかを表すことができるかどうかをみる
中学校	6 (2) [A]	26.7	25.7	$3n$ と $3n+3$ の和を $2(3n+1)+1$ と表した式から、連続する二つの3の倍数の和がどんな数であるかを説明する	式の意味を読み取り、成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる

特に課題が見られた問題

【小学校算数】

問題番号 3 (2)

3

(2) ひろとさんたちは、分数のたし算についても、小数で考えたようにふり返っています。

まず、みおりさんは、 $\frac{2}{5} + \frac{1}{5}$ についてまとめています。



みおり

$\frac{2}{5}$ は $\frac{1}{5}$ の 2 個分、 $\frac{1}{5}$ は $\frac{1}{5}$ の 1 個分です。
 $\frac{2}{5} + \frac{1}{5}$ の計算は、 $\frac{1}{5}$ をもとにすると、 $2 + 1$ を使って考えることができます。

$\frac{2}{5} + \frac{1}{5}$ は、もとにする数を $\frac{1}{5}$ にすると、整数のたし算を使って計算することができます。

次に、ひろとさんは、 $\frac{3}{4} + \frac{2}{3}$ について考えています。



ひろと

$\frac{3}{4}$ は $\frac{1}{4}$ の 3 個分、 $\frac{2}{3}$ は $\frac{1}{3}$ の 2 個分です。
もとにする数が $\frac{1}{4}$ と $\frac{1}{3}$ でちがうので、同じ数にしたいです。

$\frac{3}{4} + \frac{2}{3}$ についても、もとにする数を同じ数にして考えることができます。

もとにする数を同じ数にするとき、その数は何になりますか。その数を書きましょう。また、 $\frac{3}{4}$ はその数の何個分、 $\frac{2}{3}$ はその数の何個分ですか。数や言葉を使って書きましょう。

【中学校数学】

問題番号 6 (2)

6

(2) 連続する2つの3の倍数の和は、9の倍数になるとは限らないことに気づいた二人は、連続する2つの3の倍数の和がどんな数になるかを調べることにしました。

そこで、二人は、 n を整数として、連続する2つの3の倍数を $3n$ 、 $3n+3$ と表してそれらの和を計算し、それぞれ次のように式を変形しました。

結菜さんの式の変形

$$\begin{aligned} & 3n + (3n + 3) \\ &= 3n + 3n + 3 \\ &= 6n + 3 \\ &= 3(2n + 1) \end{aligned}$$

太一さんの式の変形

$$\begin{aligned} & 3n + (3n + 3) \\ &= 3n + 3n + 3 \\ &= 6n + 3 \\ &= 2(3n + 1) + 1 \end{aligned}$$

結菜さんの式の変形の $3(2n+1)$ から、「連続する2つの3の倍数の和は、3の倍数である」ことがわかります。

太一さんの式の変形の $2(3n+1)+1$ から、連続する2つの3の倍数の和は、どんな数であるといえますか。「 は、……である。」という形で書きなさい。

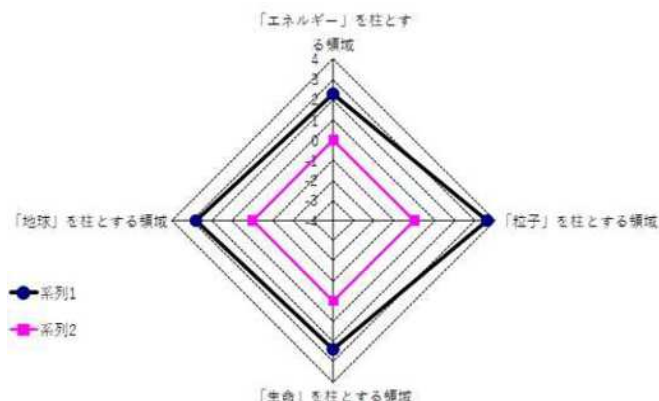
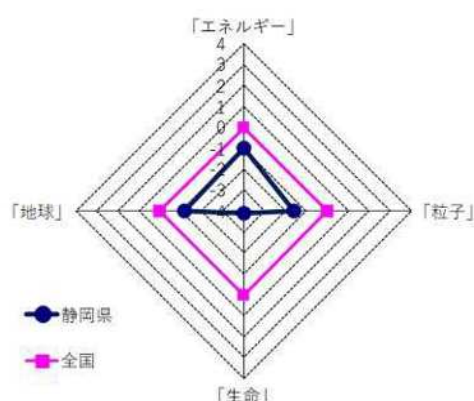
【理科】

- 小学校理科では、全ての領域で全国の平均正答率を下回った。分析し対策を検討する必要がある。
- 中学校理科では、全ての領域で全国の平均正答率を上回っており、分析をもとに目指す資質・能力の育成を今後も継続的に行っていきたい。
- 小学校では、探究の過程において知識・技能を習得することや問題を見いだすことに課題が見られる。自然の事物・現象と知識を関連付けたり、知識を相互に関連付けたりして理解を深めることが大切である。また、自然の事物・現象を比較し、差異点や共通点を基に問題を見いだし、表現することが重要である。
- 中学校では、考察の妥当性を検討し、探究の過程を調整して、実験を計画することに課題が見られた。授業において、自然の事物・現象に疑問をもたせたり、考察の妥当性を高めるための実験や情報収集を行ったりする学習場面を設定することが重要である。

<学習指導要領の内容の平均正答率の状況（全国との差）>

【小学校】全 17 問

【中学校】全 22 問（公開問題のみ）



◆課題となる問題

	問題番号 [領域等]	正答率（％）		問題の概要	出題の趣旨
		静岡県	全 国		
小学校	2 (1) [エネルギー]	9.4	10.6	アルミニウム、鉄、銅について、電気を通すか、磁石に引き付けられるか、それぞれの性質に当てはまるものを選ぶ	身の回りの金属について、電気を通す物、磁石に引き付けられる物があることの知識が身に付いているかどうかをみる
	3 (4) [生命]	24.4	29.9	レタスの種子の発芽の結果から、てるみさんの気づきを基に、見いだした問題について書く	レタスの種子の発芽の条件について、差異点や共通点を基に、新たな問題を見いだし、表現することができるかどうかをみる
	4 (1) [粒子]	47.9	50.6	水の温まり方について、問題に対するまとめをいうために、調べる必要があることについて書く	水の温まりかたについて、問題に対するまとめを導きだす際、解決するための観察、実験の方法が適切であったかを検討し、表現することができるかどうかをみる
中学校	2 (1) [エネルギー]	19.3	14.0	【考察】をより確かなものにするために必要な実験を選択し、予想される実験の結果を記述する	【考察】をより確かなものにするために、音に関する知識及び技能を活用して、変える条件に着目した実験を計画し、予想される実験の結果を適切に説明できるかどうかをみる

特に課題が見られた問題

【小学校理科】

問題番号 2 (1)

- 2 (1) アルミニウム、鉄、銅の性質について、下の 1 から 4 までのの中からそれぞれ 1 つ選んで、その番号を書きましょう。同じ番号を選んでいてもかまいません。

- 1 電気を通し、磁石に引きつけられる。
- 2 電気を通し、磁石に引きつけられない。
- 3 電気を通さず、磁石に引きつけられる。
- 4 電気を通さず、磁石に引きつけられない。

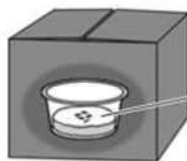
問題番号 3 (4)

- 3 たかひろさんたちは、レタスの種子を発芽させようとしています。



レタスの種子を発芽させようと思って、水、空気、温度の条件を下のようにしたのに、1 つも発芽しなかったよ。

たかひろさんが行った実験



〈条件〉

- ・水あり
- ・空気あり (種子が空気にふれている)
- ・温度 (室温)
- ・日光なし (箱をかぶせている)
- ・肥料なし

水、空気、温度のほかにも、レタスの種子が発芽するために、必要な条件があるのかもしれない。レタスの種子が発芽するために必要な条件を、上の〈条件〉の中から 1 つ選んで調べてみたい。



- (4) てるみさんは、調べてみたいことをもとに、新たな【問題】を見つけました。てるみさんは、どのような【問題】を見つけたと考えられますか。その【問題】を 1 つ書きましょう。

【中学校理科】

問題番号 2 (1)

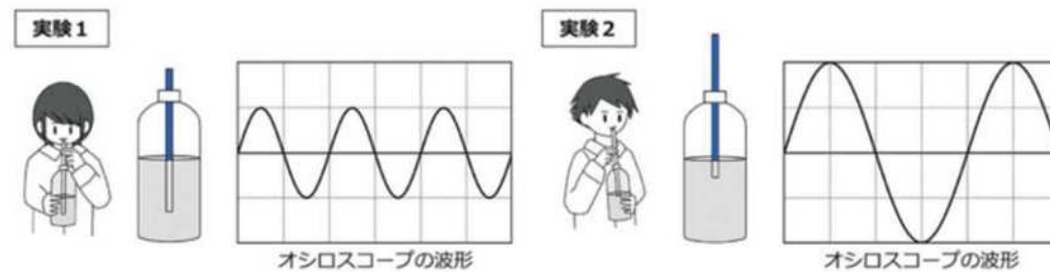
2

理科の授業で、ストローと水の入っているペットボトルで楽器をつくり、音について科学的に探究しています。

(1)、(2)の各問いに答えなさい。



【実験】「ストロー内の空気が入る長さ（の部分）」を変えて実験を行ったときのオシロスコープの波形を観察しました。



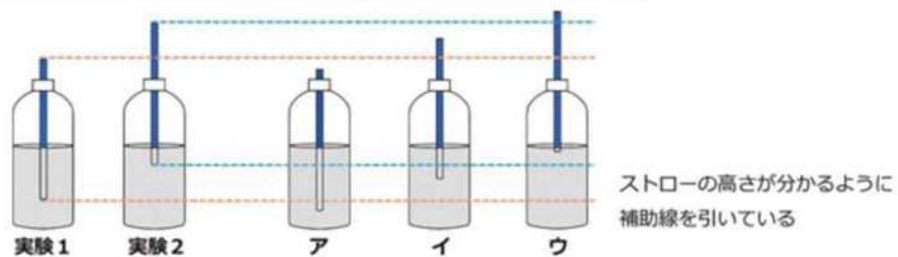
右のように【考察】しました。

【考察】

「ストロー内の空気が入る長さ（の部分）」が、長くなるにつれて、音はだんだん低くなる。



【考察】をより確かなものにするためには、あと1つ実験を行うとよいですね。
次のア、イ、ウのどれで実験を行えばよいのかな。



(1)

下線部について、【考察】をより確かなものにするために1つ実験を追加するとしたら、上のア、イ、ウのうち、あなたはどの実験を選びますが、1つ選びなさい。

上のア、イ、ウのどの実験を選んでいいかわかりません。

また、上で選んだ実験を行ったときに、オシロスコープの波形から何が分かればよいのか、振動数という言葉を使って書きなさい。

選んだ実験

分かればよいこと